文 書 館 ふくい

福井県文書館 検索

NO.74　福井県文書館　　平成28年6月発行

〒918-8113 福井市下馬町 51-11　電話 0776-33-8890　URL http://www.library-archives.pref.fukui.jp/

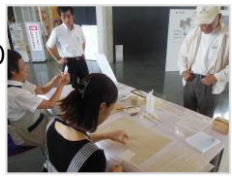
■資料展示ー福井版『さるかに合戦』ー■

この『さるかに合戦』は、子ども用の絵本ではなく、手習いの師匠が書いた、子どもが文字を学ぶための手本です。カニの本拠地は福井（安居地区）、サルの本拠地は茨城（猿島）という設定で、福井のズワイガニからサワガニまで、５千匹が東海道をとおってサルの隠れ家に攻め込むという、日本海側から太平洋側までを股にかけた壮大な物語が繰り広げられています。 加藤竹雄家文書 「（手習手本、猿蟹合戦力）」A0052-01740（当館蔵）

福井版『さるかに合戦』は、6 月 4 日（土）から 6 月 26 日（日）まで、文書館閲覧室にて展示します。

■資料保存関連■

◎公開補修



日時：6月12日（日）
　　11：00～16：00
内容：損傷した文書の補修（つくろい）を当館職員が実演します。
会場：図書館エントランス・閲覧室
※申込み不要です。

◎資料保存研修会

日時：6月17日（金）
　　13：30～16：00
内容：古文書補修の基礎を学びます。
講師：阿久津　智広　氏
　　（国立公文書館　業務課　修復係長）
会場：文書館研修室
定員：20名　※事前の申し込みが必要です。

■講座・講演会案内■

◎古文書入門講座（3回シリーズ）

日時：6月12日・19日・26日（日）13:30～15:30
内容：古文書のくずし字解読のための講座です。
講師：文書館職員
会場：文書館研修室
定員：40名　※事前の申し込みが必要です。

◎講演会「真田信繁と大谷吉継、そして越前松平家」

日時：7月30日(土) 14：00～15：30
講師：黒田　基樹　氏（駿河台大学法学部教授、
　　NHK 大河ドラマ『真田丸』時代考証担当）
会場：福井県立図書館多目的ホール
定員：200名　※事前の申し込みが必要です。

大河ドラマ「真田丸」の主人公・真田信繁は、敦賀城主大谷吉継の娘婿でした。また信繁最後の戦いとなった大坂夏の陣で信繁が衝突したのは越前松平勢でした。講演では、信繁の人生と深い関わりをもった越前との関係について取り上げます。

*講座、講演会は福井ライフ・アカデミー連携講座です。
*電話・FAX・メールにてお申し込みください。
定員に達し次第申し込みを締め切ります。
電話（0776）33-8890 FAX（0776）33-8891
E-mail　bunshokan@pref.fukui.lg.jp

■ちょっと昔の6月風景■

▲交通指導　兵庫小
昭和 49 年 66896

▲三方梅
昭和 57 年 78817

■ご利用案内■
開館時間　午前9時から午後5時まで
■フレンドリーバスをご利用ください■

■6月の開館日カレンダー■

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

　は休館日です

■今月の展示■

６月９日の国際アーカイブズの日*にちなみ、資料の素材として広く使われている和紙に関する展示を開催し、和紙の生産、再生・再利用をめぐる資料を紹介します。

*国際アーカイブズの日･･･文書や記録を保存し、その利用を図ることの大切さを考える日。1948 年（昭和 23）６月９日、国際公文書館会議（ICA）の発足にちなんでいます。

「紙を漉く図」（『越前紙漉図説』より）

福井県文書館月替展示　2016.4.16-6.22

和紙 -生産と再生のエピソード-

越前各地の和紙の生産などを示す資料のほか、和紙の一生、いわば「和紙のライフサイクル」に関する資料とエピソードを紹介します。

紙をつくる

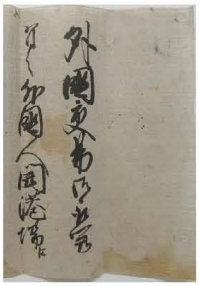
1872 年（明治 5）9 月、今立郡岩本で奉書紙を漉いていた小林忠蔵は、翌年のウィーン万国博覧会への出品にむけ、上の「紙を漉く図」などを含む和紙生産の報告書『越前紙漉図説』（国立国会図書館蔵）を博覧会事務局に提出しました。

これは今立郡五箇の和紙が、当時の日本を代表する工芸品であったことを示すエピソードです。今立は紙祖神「川上御前」の古い伝承をもち、中世には産地として確立していました。そして、今立の和紙づくりの伝統は、近世を経て現代に受け継がれています。

小林忠蔵の報告書から約 140 年。今立など越前各地の和紙づくりの歴史をものがたる資料を展示します。

福井藩札（天保札）

紙を再生・再利用する



漉返紙の資料（部分）
（『外国交易』『江戸郵便行程達』）

和紙の再生の歴史は古く、例えば天皇の略式命令を伝えた綸旨は、漉返した再生紙（薄墨紙、宿紙）を使用するのが慣例でした。和紙の再利用もさかんに行われ、反故紙の裏面（紙背）も古くからしばしば利用されました。また反故紙は、襖や屏風の下張りに使われました。

紙が物資として貴重であった時代には、いわゆる反故紙の「リサイクル」「リユース」もさかんに行われていたとみられます。展示では、江戸時代の漉返紙や下張紙の資料のほか、江戸時代から明治時代の「紙のリサイクル事情」をうかがうことができる資料を紹介します。